

平成21年度 たっち 事業計画概要

前年の概況

1. 平成17年3月オープン以来丸4年を経過し、府中市の子育て支援の中核施設として、市民・関係機関への認知も増した。
2. ひろば登録者は延べ3万3千を数える。現保有利用数は33,483名(2/28現在)
今年度 登録者の割合は市内 1883名 市外 3225名
今後も同様の傾向が継続していくものと思われる。
3. リフレッシュ保育 月平均登録30名(20年度35名)
利用者124名(19年度130名)
4. ファミリサポートセンターは、依頼会員 879名 提供会員 247名 両方会員 73名(2月末現在)
5. 受付においては、ひろば登録はやや落ち着くも、未だ1日あたり15件、また保健室での身体測定も人気あり、1日あたり11件と需要大きい
6. 相談事業においては、新規相談件数は12月末までで584件
市の相談員と協働しながら、幅広い相談内容に対応した。
7. 各部署協働をテーマに事業運営
お互いの業務を知ることで連携は深まりつつある
今後も更なる相互理解を進めることが求められる

課題

1. 利用者が気軽に利用できる施設づくりを目指す。
利用者が安心して利用できる施設を心がける。
2. 利用者ニーズを把握して、支援の充実を図る。
利用者自身が地域の中で、周りの人や社会資源とつながりが持てるよう支援する。
3. 利用者の安心・安全を保障し、事業の充実を図る。
安全点検を実施し、防災・防犯等日常管理を徹底し美化を心がける。
4. 職員の資質・専門性の向上を図る。
利用者に信頼される職員を目指して、マナー研修を実施する。
5. 「しらとり」との協働
府中市におけるサービス・相談事業に関する、相互補完体制の確立
6. 相談事業における市職員との協働体制の更なる充実
7. 職員が心身ともに健全に勤務できる環境整備
・「加湿」「換気」「空調」対応を府中市に常に働きかける。
・ファミリーサポート事業の事務所スペースの確保
8. ライフ・ワーク・バランスの推進
毎週1回「ノー残業デイ」(府中市は全庁水曜日)を設定し、超過勤務によるオーバーワークを抑制する。

- ### 本年重点ポイント
- 重点ポイント
- 1 子どもたちが、楽しくかつ安全・安心に利用できる場を、利用者へ提供する。
・ご来館いただいた方が、「また来たいかなるような場」としての雰囲気作りを心がける。
・不特定多数の子どもの集う場として、常に安全優先を心がける。
 - 2 府中市子育て支援施設の中核拠点として、
・子育て関連情報の把握、発信を行う。
・関係機関と連携し、全ての子育て家庭を支援する。
 - 3 白鳥寮・子ども家庭支援センターしらとりとの連携・情報交換
・府中市の子育て支援施設として、定期的に職員交流を行い、相互のサービス向上に努める。
 - 4 職員の一人ひとりのスキルアップを図るとともに、組織力の強化としてのチームワークの向上を目指す。
・年齢、経験に関わり無く、互いの人間性を尊重し、支え合いのできる関係、職場環境づくり。
・相談員・支援員・福祉ワーカーとしての経験、専門性を活かした、職場内メンタルケア体制の基盤構築。
 - 5 子育て支援に関する、新たな事業展開に向けての3ヵ年の2年目と位置づけ、具体的な支援案を検討する。
(法人児童施設横断研究会)。

- ### ☆全体を通した考え方
- 法人の役割「私たちは家族を支援します」を念頭に子育て家庭の力の一助になり、地域の子どもたちが安心・安全に暮らせるよう支援する
そのために
府中市協働のもと、しらとりをはじめとする市内関係機関と連携し、子育て支援の中核拠点として地域福祉の向上を目指す
- また、推進にあたり
法人の基本指針
- 1 利用者に深い共感をもつ
 - 2 地域の方々に感謝する
 - 3 水、電気などの資源を大切にす
 - 4 常に防災を心がけ火を出さない
- の教訓を理解し、職員ひとりひとりがそれぞれの立場で読み替え行動指針としていく
- 21年度の具体的なアクションとしては
前年度に引き続き、
- ①利用者へのサービスの質の向上
 - ②職員の育成
 - ③今後も利用者のニーズを把握することに努め、その内容を踏まえ、計画を立て、実践していく。

		対利用者	職員・業務
運営・管理		<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもが集う場として常に「安全・安心」な環境を維持する-その上で利用者がまた来館したくなるように職員一同マナーや思いやりを心がける。 2 毎月防災訓練を実施する。年2回、たっちの入っている「くるる」防災訓練においても積極的に役割を担い、自主訓練においては消防の指導訓練を1回実施する。 3 アンケートにより利用者のニーズを把握し、的確且つ迅速にサービスに反映する。更にサービス自主評価を実施し、自己点検を行い、改善に向けて検討する。 4 全部署が、必要な情報の共有や状況把握のための連携、情報交換を随時、定例で行い、対応方法を周知徹底する。 5 法人の理念に則り、地域の活性化に繋がる体験ボランティアの受け入れ、ボランティアの育成に積極的に取り組む。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員が、心身ともに健全に業務に従事できる環境作りに向けたマネジメント体制の確立 2 業務内容の質の向上のためにスキルアップ研修プログラムを企画し実施する ・しらとりとの連携による事業・サービス体験プログラムの企画、実施 ・専門性向上のための、年度における個人研修プログラムの計画、実行 3 ボランティア対応強化に向けた専任職員のスキルアップ～ボランティア・コーディネーター養成(府中市、地域社会福祉協議会との積極的連携)
	総合相談	<p style="text-align: center;">受付</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 利用者に深い共感を持ち、いつでも気楽に施設利用し、問い合わせや相談ができる雰囲気づくりを行う 2 利用者が安心して地域で子育てができるように地域の資源や交流会・講座を案内する 3 たっちの他部署と連携し施設全体として一貫性のあるサービスの提供を行う <p style="text-align: center;">相談</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 虐待の予防と早期発見を行い、市の相談事業と連携・協働を行う 2 利用者の悩みや困ったことに対して共感し、利用者の問題解決能力が発揮できるように支援を行う 3 利用者のニーズを把握し、地域の方々に喜ばれるような交流会や講座を実施する「妊婦向け、パパ・ママ向け・2歳児イヤイヤへの関わり方」年に1回 4 しらとりと協働し、より充実した相談事業とサービスの提供を行う 	<ol style="list-style-type: none"> 1 利用者に必要な情報の収集・発信を適切に行う 2 たっちの他部署の業務を熟知し、利用者適切に案内する。また部署間の連携が円滑に行えるように配慮する 1 利用者支援に必要な知識や技術、常に最新な情報を収集し対応できるよう心掛ける 2 利用者やその家族の生活全般を総括的に支援する。 3 相談員の援助技術の向上と併せて、セルフケアを心がけ、お互いにサポートし合える関係をつくる
家族支援	ひろば	<ol style="list-style-type: none"> 1 利用者が安心して、安全に過ごせる場を提供するため、館内の安全確保、衛生管理に努める。 2 利用者が話しやすい雰囲気作りを行い、不安や悩みを受け止める場としての役割を果たす。(不安の高い利用者に対しては、相談事業につなぐ役割を担う。) 3 季節感を大事に考え、装飾や行事にも反映しながら、親子のふれあいや家族、家庭に持ち帰ることのできる題材を提供する。 4 利用者への啓発に繋がる情報提供や、感染症予防等に向けて、掲示板などを活用する。 5 他の事業と連携し、子育て家庭を支援する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 職員間のコミュニケーションを密にし、部署内の情報共有を円滑に行う。 2 他事業への情報発信、情報共有を密に行い、部署間の連携が円滑に進むようにする。 3 利用者支援を向上させるためのスキルアップを図る。
	リフレッシュ保育	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもも親も安心して利用できる保育を行う。 2 「子育てを抱え込まない」、育児疲れ等の予防的役割を担う。 3 利用者に共感する姿勢を持ち、「子どもの育ち」「親の育ち」を支える。 4 利用者一人ひとりを的確に把握し、変化を踏まえた個別的な働きかけを行う。 5 より正確な情報を把握する 年度毎に利用者情報等を更新する。 6 他の事業と連携し、子育て家庭を支援する。 	<ol style="list-style-type: none"> 1 「ほうれんそう」を徹底し、職員間の意志疎通を図ることにより、利用者への丁寧な対応と充実した保育を行う。 2 部署内における事例共有会を通して、職員のスキルアップを目指す。 3 多様な利用者への支援に必要な知識・技術の向上に努める。
	ファミリサポート	<ol style="list-style-type: none"> 1 会員数・活動状況の拡大、活性化に向けて、広報活動を積極的に行う。 例、通信の発行(年3回)／HP等によるPR／市広報の活用 2 利用を希望する家族が、速やかに登録できるように、できる限り多く依頼会員説明会を定期的に開催(月2回以上)する。 3 提供会員が安心して援助できるように、入会時の4日間研修の内容等、講習会の充実を図る。 4 ステップアップ講座を定期的に開催し、スキルアップを図るとともに、会員相互の交流を深める一年2回の専門研修(発達障害・救急対応等)を行う。 5 コミュニケーションからの信頼、安心感の醸成に向けた、交流会を年2回開催する。 6 市内関係機関と更なる連携を図り、本事業の理解を広める 7 他事業との連携をとりながら、利用者支援の向上を図る 	<ol style="list-style-type: none"> 1 会員に的確なアドバイスができるよう職員のスキルアップを図る(各種研修の参加) 2 変則勤務が多い中、職員間のコミュニケーションを的確に行う。 3 他市区ファミサポの状況を把握し、今後の運営の参考にす。 4 事務業務の省力化を検討をする。 新支援システムへの移行のための事前準備(～10月)円滑な導入のための研修等